

「江戸しぐさ」

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校長

小 幡 圭 二

夏の日差しが厳しいこの頃です。おといねっぷ美術工芸高校生の溢れる才能が十二分に発揮され、みんなが輝いた素晴らしい学校祭が終わりました。まさに「BOOM!!! ～溢れる才能を爆発せよ～」というテーマそのものでした。様々な企画展示、一人ひとりの一生懸命な姿と達成感に満ちた笑顔に「おと高」らしさがあり、ここにこそ価値があるのだと感じました。今年も、最高のパフォーマンスを有り難うございました。そして、学校祭の成功には、保護者のみなさんのご協力や地域の方々のご応援も大きな力となりました。学校祭を支えてくださった皆さんに、心から感謝いたします。

さて、今年、2015 年は徳川家康の没後 400 年目にあたります。2003 年の江戸開府 400 年をきっかけに起こった「江戸ブーム」によって、江戸の歴史や文化に様々な関心が寄せられるようになりました。その一つに「江戸しぐさ」というものがあります。江戸開府によって、ようやく戦乱が終わり平和になりました。当時、江戸の人口は約 15 万人。その後、すごい勢いで増加し 18 世紀には 100 万人を優に超え、世界でも有数の大都市になったのです。江戸には武士、農民、商人、職人が暮らしていましたが、圧倒的に多かったのが商人。人々がごった返す中、商人たちが人間関係をうまく保つために編み出した生活哲学が、この「江戸しぐさ」だったのです。

例えば「傘かしげ」。雨の日に傘を差してすれ違う時、相手が濡れないよう互いに傘を外側に傾ける。「こぶし腰浮かせ」は、渡し舟の座席で先に乗った客がこぶし分だけ詰めて一人でも多く座れるようにする。「うかつあやまり」は、人混みで足を踏まれた時など、踏まれた人も「よけずにうっかりしました」と謝る。他にもたくさんありますが、共通していることは、ほんの少し相手を思いやる気持ちを持ったしぐさ（行い、動作）であること。この心遣いによっていさかい（言い争い、ケンカ）なくお互いが気持ちよく生活出来たのだそうです。

「おと高」で学ぶみなさんは、学校ばかりでなく寮でも一緒に生活しています。学校や寮の生活で、気づかないうちに仲間に迷惑をかけていることはありませんか。実は、自分が気にならないことでも、相手にとっては気になることもたくさんあるのです。それぞれが気持ちよく有意義な生活を送れるように、ほんの少しの心遣いといつもの笑顔を忘れずに充実した高校生活を送って欲しいと思っています。そして、背伸びせず、小さな努力を一つ一つ積み重ねながら、自分の夢を創造してください。

夏休みに入りますが、時間に余裕があるこの期間を利用して普段できないことに挑戦してみてはどうでしょうか。有意義な時間を過ごしてください。また、厳しい暑さが予想されます。健康管理には十分気をつけてください。

「おと高」の生徒たちにとって、夏休み期間中ご家族と過ごす時間は大変貴重であると考えています。保護者の皆様には、学校生活や将来のことなど、子どもさんとの会話の時間をたくさん持ってくださいますようお願いいたします。

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に暖かいご支援とご協力をいただき有り難うございます。また、この度の学校祭、6 月に開催した「木の手づくり展旭川」では、保護者の皆様に大変お世話になりました。ご協力に心から感謝いたします。



学校だより

No. 2

平成 27 年 7 月 28 日
発行



PTA の皆様へ

北海道高等学校 P T A 連合会大会 北見大会に参加して

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校 P T A 副会長

黒 川 浩

6 月 1 3 日・1 4 日、北見市で行われた大会に参加させていただきました。

1 日目は、テレビや雑誌などで有名な南極料理人、西村 淳さんの講演でした。2 0 0 9 年 8 月、著書『面白南極料理人』が映画化され、主人公西村役に堺 雅人を迎え、全国で公開されました。今回は、「ご飯にしよう！」という演題で南極観測隊のメンバーとの心温まる様々な交流を見つめながら、南極での限られた食材をどう工夫しておいしい料理に作り上げたか語ってくださいました。(米にもちをいれて赤飯風にしたり、重曹でうどんやスパゲティをラーメンに等・・・)最後にひとりのメンバーの幼少時代の弁当エピソードを語って下さいました。作る側のお母さんの気持ちと食べる側の息子の気持ちのすれ違いを通して、食から伝わる心の大切さを教えていただきました。私も感動しましたが、それ以上に場内が感動の渦に包まれていました。本当によかったです。オーロラの映像もすばらしかったです。

2 日目の分科会は「子どもたちのために P T A としてできること～学校行事への協力と支援について～」をテーマに活発な意見交換がなされました。私も、積極的に生徒のすばらしい作品を出品する木の手づくり展や学校祭を通じて、P T A の果たしている役割の大事さをアピールさせていただきました。隣の席にいた幌加内高校の事務局の方から「参考にさせていただきます」と言っていただき、うれしく感じました。そして、改めておといねっぷ高校のすばらしさを再確認することが出来ました。

最後に、車を出していただき、2 日間お世話になった西後教頭先生に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。今回、このような機会をいただいた事に深く感謝するとともに、残りわずかな期間ではありますが少しでも学校、P T A のお役に立てるよう頑張っていきたいと決意して、報告とさせていただきます。

第 6 5 回北海道高等学校 P T A 連合会大会（北見大会）

主催：北海道高等学校 P T A 連合会

共催：一般社団法人全国高等学校 P T A 連合会

日時：平成 27 年 6 月 1 3 日（土）・1 4 日（日）

会場：北見市民会館、北海道北見北斗高等学校、北海道北見柏陽高等学校

参加分科会

【2 1 6】子どもたちのために P T A としてできること～学校行事への協力と支援について～
(黒川 副会長 出席)

【2 1 7】地域とともに子どもを育てる P T A 活動について
(西後 教頭 出席)

〒098-2501

北海道中川郡音威子府村字音威子府 181 番地の 1

HP:

<http://otoineppu-ac-h.server-shared.com/>

Email:

otokoh@seagreen.ocn.ne.jp

行 事 予 定

8 月

2 2 日 駿台全国判定模試（3 年）

2 5 日～2 7 日 高文連支部大会（稚内）

2 9 日 全統模試（1・2 年）

3 1 日 古紙回収

9 月

3 日～7 日 前期期末考査

1 0 日 寮避難訓練

1 2 日 1 学年寮生レクリエーション

1 4 日～1 7 日 デザインスクール（2 年）

1 9 日 駿台ベネッセマーク模試（3 年）

2 5 日 生徒会役員選挙

2 6 日～1 0 月 7 日 国際理解教育 派遣

2 9 日 強歩記録会

1 0 月

2 日 全校集会

3 日 帰省

1 2 日 帰寮日

「考える」ということ

教務部長 川 添 龍 一

あなたのおと高へ入学した目的は、何でしょうか？木工作品を作ってみたいとか、絵を思いっきり描きたいとか、ひとそれぞれ一人一人違うでしょう。そして、ただ作るとかただ描くのではなく、「つくるための・描くための技術を身に付けたい」という「学び」の意欲も、そこにはあることでしょう。おと高への入学には、人それぞれ「学ぶ目的」があるはずです。

「学ぶ（まなぶ）」は、真似る（まねる）→まねぶ→まなぶと、言葉が変化してできたと言われています。でも、「猿真似」（さるまね）という言葉があるように、考えることなく真似をすることは賢い事ではないようです。現に、工芸や美術の作品を見てみると、何かそっくりで、その再現力には感心しますが、その人らしさや何のために作っているのかが見えないこともよくあります。また、話を聞いていると詳しくいろいろな事を知っているのは理解できるのですが、その知識を活かせず、作品や発表から迫ってくるものが感じられないこともよくあります。そういう作品や発表を目にするたび、とっても残念な気持ちになります。

知識や技術を身に付けることは、学ぶ事の1つです。しかし、それだけでは何にもなりません。工芸や美術の授業で先生方から繰り返しよくお話されていることだと思いますが、「自分がどう思うのか」、「何のために作るのか」、そして「どうしたいのか」ということをはっきりさせ、それを実現するために考えることが重要です。そして考えることこそ、自分らしさを出す源であり、新しいものを創り出す方法です。

行事、寮生活、様々な場面で問題が発生します。それら問題に向き合い、考え解決していくことが、考える力を伸ばす方法です。言われたことをこなしたり単に暗記することばかりでなく、考えて自分で答えを導き出す「おと高の学び」を、大切にしていって下さい。考えることは、夢を創造することです。

生徒指導部から

生徒指導部 大 木 民 郎

生徒の諸君、保護者のみなさん、学校祭は大変お疲れ様でした。生徒みんなが一生懸命に取り組めた様子を、とても嬉しく思っています。学校生活というのは、勉強をしながら、その他のことにも兎に角打ち込んで、楽しみ、笑い、時には泣いて、一生懸命にやった者が勝ちです。楽しむというのは、努力し、苦しんで、その先にニコッとする場面があることです。汗を流さねば面白いことも半分になります。そんなことを学校祭の準備期間中に考えていました。

さて、4月に生徒指導部の先生から言った「今年度、気になる」を覚えていますか？そう、「朝食」です。どれだけの生徒ができるようになりましたか？あるいは「できなくなってきた」生徒はいませんか？しっかり朝食を摂ることで「120%の能力」を出せましたか？自身のポテンシャル（潜在能力）を最大限に引き出す鍵が、「朝食」にあります。夏休みにもしっかりと朝食を摂り、あるいは摂れるようになって、夏の終わりにはひと回り身体が丈夫になった諸君とお会いしましょう。

進路指導部から

進路指導主事 福 澤 等

今年も三者面談の季節がやってきました。夏休み明けには就職試験の募集が開始され、専門学校のAO入試は既にエントリーが行われています。生徒にとっては人生の選択を迫られる、胃が痛くなる時期、ということになります。

ここでお願いしたいことは、1・2年生の皆さんに、「3年生は大変だなあ…」などと他人事のように捉えていただきたくないということ。

確かに3年生は大変です。限られた時間の中で自分の希望（何をしたいの？）と適性（何ができるの？）を見極め、保護者の希望（何を望まれてるの？）や家庭の状況（費用はどうするの？）との擦り合せを行わなければならないのです。準備もしなければなりません。課題もたくさんあります。部活動で忙しい人もいます。

…と、ここまで言えばお気づきの方も多いかと思います。実は、ほとんどのことは1・2年生のうちにできてしまうのです。悩み多き年頃、普段の生活で精一杯なのは分かりますが、先送りにすればするほど、未来の自分を苦しめることになりますよ。今、できることは今のうちにやっておきましょう。



平成27年6月12日～14日 木の手づくり展（旭川）



クロスカントリースキー部 表彰



出 前 授 業



平成27年7月12日 地方創生担当大臣 石 破 茂 氏 本校視察

